

安全確保の方策等に関する検討状況について

- 1. 警察との安全対策の検討と訓練の実施について**
- 2. 地域防災計画へのBSL-4施設の掲載について**
- 3. 消防との災害発生時の対応策の検討と訓練の実施について**
- 4. その他**

1. 警察との安全対策の検討と訓練の実施について

(前回までのご報告)

特定病原体等の盗取等の事故への対応策の検討状況

特定病原体等の盗取等の事故に備え、実験棟の安全管理規則等に記載された対応について、令和6年10月25日及び12月9日に長崎県警察(以下、警察)の担当者
と打ち合わせを行った。

この打ち合わせにおいて、事故発生時の対応などについて具体的な助言をいただいた。

また、令和7年1月15日には、本年度中に実施予定の対応訓練について警察の担当者
と打ち合わせを行った。



警察との打ち合わせ(R6.12.9 高度感染症研究センター)

不審者への対応と警察への通報にかかる訓練の実施(令和7年2月27日)

長崎大学高度感染症研究センター実験棟にて不審者への対応と警察への通報にかかる訓練を実施した。

訓練の内容は、不審者役の警察官がフェンス入り口にて騒ぎ、その対応を大学側の警備員と職員が行うもの。

不審者への対応に加え、通報事案が発生した場合の通報方法や報告体制についても再度確認した。





令和7年度の警察との安全対策訓練の検討について(令和7年12月5日)

本学高度感染症研究センター本館において、長崎県警察と令和7年度の防犯訓練の打合せを行った。

事案が発生した場合に、本学と警察が連携して解決に当たるための対応・連絡訓練を行うべく、日程や内容等について協議した。

また、警察の担当者からは、防犯対策等について昨今の事例を交えて助言をいただいた。



警察との打合せ(高度感染症研究センター)

2. 地域防災計画へのBSL-4施設の掲載について

(前回までのご報告)

長崎市 防災危機管理室・感染症対策室との打合せ(令和6年10月10日)

本学BSL-4施設が特定一種病原体等所持施設として厚生労働大臣に指定された場合には、長崎市地域防災計画の中に「特定一種病原体等所持施設に係る事故・災害等対策計画」が掲載されることになる。

このことを踏まえ、本学実験棟の安全管理規則、基準をもとに事故・災害等対応計画の内容について、長崎市防災危機等管理室・感染症対策室と打合せを行った。



長崎市等との打合せ(長崎市庁舎)

長崎市地域防災計画の 特定一種病原体等所持施設に係る事故・災害等対策計画(第5章第10節)の概要

特定一種病原体等所持施設に係る事故・災害等対策計画では、本学のBSL-4施設における事故・災害発生時を想定して、平時と事案発生時の対応を明示した上で、大学・市・県・消防・警察が協力して対応できる体制について記載している。

平時には、本学が感染症法等に基づき安全管理及び初動対応に必要な措置を講じるとともに、市及び関係機関は大学との情報共有や訓練を継続的に実施するもの。

また、事案発生時には、本学と行政機関が連携して応急対応と情報提供を行うことで、市民の不安や混乱の抑制を図っている。



* 長崎市地域防災計画より

長崎市防災会議における長崎大学BSL-4施設の説明(令和7年3月25日)

長崎市の「地域防災計画」に、本学BSL-4施設に係る事故・災害等対応計画が記載されたことを受け、長崎市防災会議においてBSL-4施設の現状や今後の対応について説明した。(高度感染症研究センター 中嶋教授より説明)



長崎市防災会議(長崎市役所7階大会議室兼災害対策本部室)

令和6年度長崎市防災会議

日時：令和7年3月25日(火)14:00~15:00
場所：長崎市役所7階大会議室兼災害対策本部室

次 第

- 1 会長あいさつ
- 2 報 告
(1) 令和6年度長崎市防災事業報告について
(2) 令和7年度長崎市防災事業について
- 3 議 題
長崎市地域防災計画・水防計画の一部修正について
- 4 その他
長崎大学高度感染症研究センター実験棟(BSL-4施設)の対応状況について



長崎市長(長崎市防災会議会長)の挨拶

3. 消防との災害発生時の対応策の検討と訓練の実施について

長崎市等との打合せ(令和7年4月18日)

情報伝達訓練の位置づけや連絡体制、訓練日程について長崎市及び消防署と意見交換を行った。

消防署からは、実際に近い形で実施することや車両3台の出動、ホース展張など具体案が示された。

また、当日の連絡窓口やシナリオ確認先など、双方の調整事項を共有し、訓練実施に向けた方向性を確認した。



長崎市等との打合せ(長崎市役所11階会議室)

消防署との打合せ(令和7年4月18日)

北消防署との事前打合せにおいて、訓練日時・車両配置・進入ルートなど基本事項を確認した。

模擬消火や館内放送の方法、安全対策、火災想定など運用面の詳細についても打ち合わせた。

また、講評体制や自衛消防隊の動きの確認方法を共有し、訓練実施に向けて調整を行った。



北消防署との打合せ(北消防署3階会議室)

事前現地確認(令和7年5月1日)

消防通報訓練の実施に先立ち、北消防署とともにBSL-4施設が所在する坂本キャンパスにおいて事前確認を実施した。

現地の下見に加え、災害や事故発生時を想定して、実験棟内の火元想定箇所や避難経路を確認した。

また、車両の駐車位置や防火水槽の位置など、効率的な消防体制の構築に向けた検討を行った。



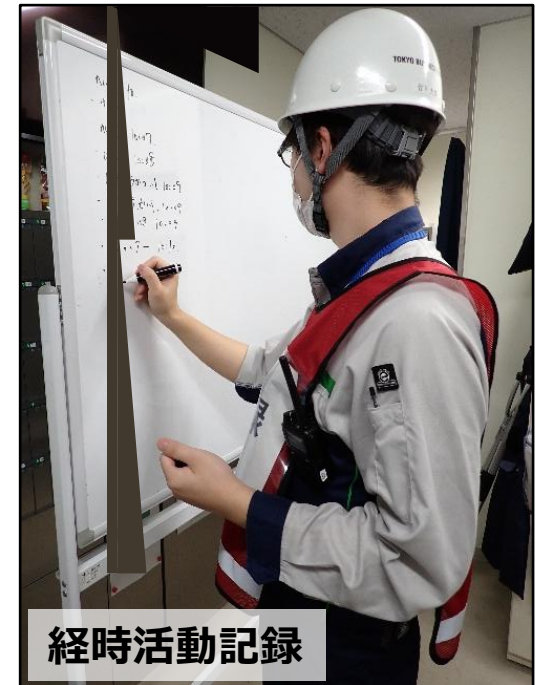
北消防署、長崎大学、委託会社による事前確認(長崎大学坂本キャンパス)

消防通報訓練の実施(令和7年5月21日)

消防通報訓練を実施し、火災時の初動対応に加え、通報方法や報告体制、避難誘導手順を再確認した。

講評では北消防署より概ね問題なしとの評価を受け、今後も安全確保と予防体制の強化に努めることを確認した。

次年度以降も北消防署の協力を得て、訓練を継続していく。





初期消火の実施



駆け付けた消防隊の誘導



駆け付けた消防隊と情報を共有



訓練終了後の講評

坂本 1 団地の防災訓練へ参加(令和7年10月28日)

高度感染症研究センター(以下、センター)は、坂本キャンパス全体の自衛消防隊の分隊として新たに実験棟自衛消防隊を設置し、本学坂本キャンパス全体で実施された防災訓練に参加した。

当日は、実験棟自衛消防隊を中心に、行動・連絡訓練として、安全確保や避難行動を確認した。

訓練には、センター教職員等も多数参加し、災害時に求められる迅速かつ的確な対応を学ぶとともに、センターとしての防災意識の向上に努めた。



消防署との連携(長崎大学坂本キャンパス)



消防署員による今回訓練の説明



水消火器による初期消火訓練



煙体験ハウスによる避難体験

警備講習会への参加(令和7年10月8日)

委託会社が実施した警備講習会に、警備担当社員とともにセンター職員1名が参加した。

今回の講習では、護身用具の取り扱いを中心に講義が行われ、緊急時には警備員と協力して円滑に対応できるよう、安全管理と警備業務の連携強化に努めた。



警戒棒



防刃ベスト



DVDによる講習(高度感染症研究センター)

非常用備蓄の整備(令和7年10月16日)

高度感染症研究センター実験棟において非常用食料等の備蓄を開始した。

これは地域連絡協議会での協議を踏まえた取組でもあり、長崎県の地域全体で災害への備えを強化するという方針にも沿ったものである。

今回整備品は、災害発生直後を想定し、実験棟で常駐勤務する者に最低限必要な物資を準備して、被災時でも安定した管理体制を目指すもの。



【備考】 15人7日間を想定



水：約3L/人日
(野菜ジュース除く)



食料：384食

施設設備及び警備の保全業務にかかる人員15名分について、災害対策基本法、政府広報等の目安を参考に、1週間分の食品の備蓄を行うものです。

非常食は、賞味期限が3～5年のため、順次入れ替えながら管理します。

地域における理解促進に向けた取組について

地域連絡協議会の開催

①協議会の趣旨

地域住民に、感染症研究拠点整備に関する検討状況に関して情報提供を行うとともに、地域住民の安全・安心の確保等について協議をするため、長崎県・長崎市・長崎大学による協議会のもとに地域連絡協議会※1を設置。(平成28年度)

令和5年度からは、施設の竣工を受けこれまでの情報提供及び安全・安心の確保等についての協議から、施設の運用状況や安全対策及び災害対策等についての情報共有及び協議を行う場として、新たな協議会※2にリニューアル。

※1)「長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会」(平成28～令和4年度)

※2)「長崎大学高度感染症研究センター実験棟の運用に関する地域連絡協議会」(令和5年度～)

②新たな地域連絡協議会の構成員(令和8年2月時点:21名)

1. 近隣連合自治会長・自治会長(6名 ※坂本校区連合自治会長と江平自治会長は同一者が兼務)

- ・坂本校区連合自治会長
- ・高尾校区連合自治会長
- ・山里地区連合自治会長
- ・江平自治会長
- ・坂本町道上自治会長(不在)
- ・平野町山里自治会長
- ・平和町自治会長
- ・本尾町自治会長(不在)
- ・山里中央自治会長

2. その他地域住民等(2名)

- ・前公募委員

3. 学識経験者・専門家(3名)

- ・長崎大学病院感染制御教育センター長
- ・長崎県医師会常任理事
- ・弁護士 ○

4. 行政(5名)

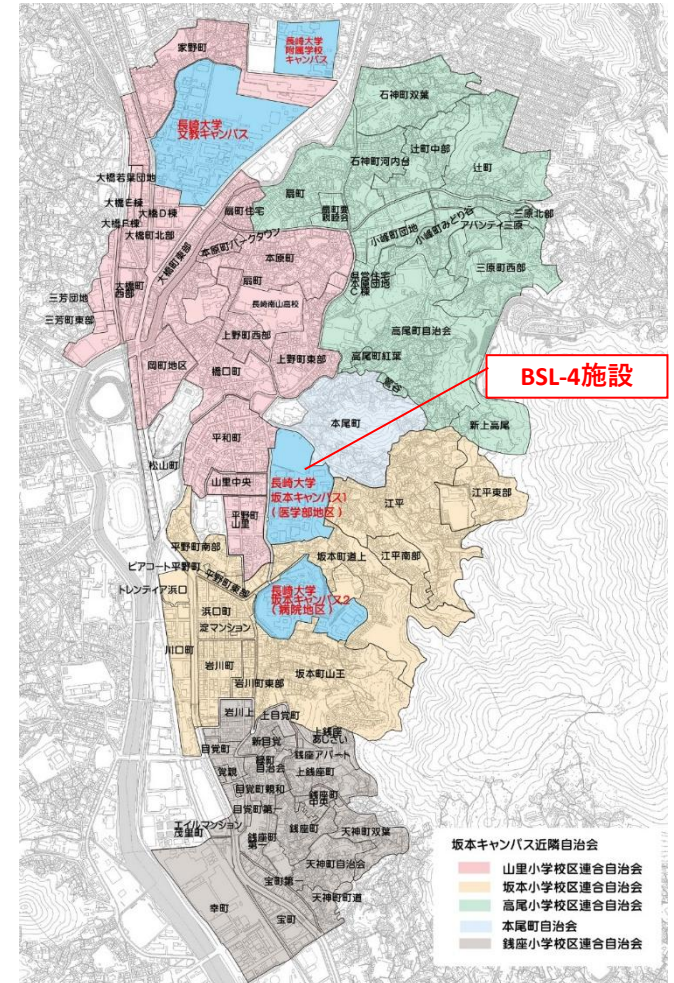
- ・長崎県福祉保健部地域保健推進課長
- ・長崎市市民健康部次長兼感染症対策室長
- ・長崎市防災危機管理室長
- ・長崎市消防局警防課長
- ・長崎市北消防署警防1課 課長補佐

5. 長崎大学(5名)

- ・森内 浩幸 ◎ 高度感染症研究センター・センター長
- ・安田 二郎 高度感染症研究センター・副センター長
- ・南保 明日香 高度感染症研究センター・教授
- ・中嶋 建介 高度感染症研究センター・教授
- ・渡邊 英一郎 高度感染症研究センター・教授

(◎は議長、○は副議長)

坂本キャンパス周辺の連合自治会・自治会



③ 長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会【平成28年度から令和4年度まで44回開催】

開催日	回数	主な議題
H28年5月12日	第1回	BSL-4施設設置計画
6月2日	第2回	ウイルスの特徴、立地の地価等
6月30日	第3回	施設の安全対策、施設のリスク対策等
7月13日	第4回	国の関与、立地の安全性等
8月3日	第5回	委員からの質問・意見
8月31日	第6回	委員からの質問・意見
9月9日		国立感染症研究所の視察
9月27日	第7回	委員からの質問・意見
12月25日	第8回	委員からの質問・意見への回答
H29年2月17日	第9回	基本構想、熱研における病原体の安全管理状況、委員からの質問・意見への回答
5月23日	第10回	基本構想(中間まとめ)、委員からの質問・意見への回答
7月4日	第11回	基本構想(中間まとめ)、委員からの質問・意見への回答
8月22日	第12回	基本構想とりまとめ、委員からの質問・意見への回答
12月20日	第13回	基本構想、諸外国のBSL-4施設、安全確保上考慮すべき事象、委員からの質問・意見への回答
H30年2月9日	第14回	基本構想の印刷・配付、委員からの意見書、委員からの質問・意見への回答、平成30年度予算政府原案、安全確保上考慮すべき事象
3月18日	第15回	前回会議での指摘事項、委員からの質問・意見への回答、安全確保上考慮すべき事象
5月8日	第16回	安全確保上考慮すべき事象、委員からの質問・意見への回答
6月29日	第17回	BSL-4施設的设计概要、前回会議での指摘事項、委員からの質問・意見への回答
7月20日	第18回	委員からの質問・意見への回答、リスクアセスメントに基づく対応、建設までの主な工程
8月10日	第19回	委員からの質問・意見への回答
9月28日	第20回	BSL-3実験室からの排気検査結果、リスクアセスメントに基づく対応、緊急時の対応、委員からの質問・意見への回答
10月26日	第21回	第20回会議での指摘事項、委員からの質問・意見への回答
11月14日	第22回	今後のスケジュール、委員からの質問・意見への回答
12月19日	第23回	委員からの質問・意見への回答
H31年2月6日	第24回	今後のスケジュール、平成31年度予算政府原案、委員からの質問・意見への回答
R元年5月14日	第25回	今後の審議事項、建設工事の状況、平成30年度予算の執行状況、委員からの質問・意見への回答
7月17日	第26回	建設工事の状況、平成30年度予算の執行状況、委員からの質問・意見への回答
9月27日	第27回	建設工事の状況、地域説明の予定、監理委員会や予算要求の状況、委員からの質問・意見への回答、運用規則の検討

開催日	回数	主な議題
R元年11月19日	第28回	建設工事の状況、説明会等の実施状況、委員からの質問・意見への回答、運用規則・教育訓練
R2年2月7日	第29回	建設工事の状況、地域連絡協議会の報告会、令和2年度予算政府原案、委員からの質問・意見への回答
8月21日	第30回	建設工事の状況、令和元年度予算の執行状況、監理委員会報告、研究棟の建設計画、委員からの質問・意見への回答
8月25日	第31回	委員からの質問・意見への回答
10月14日	第32回	建設工事の状況、令和3年度概算要求、ロードマップ2020の採択、委員からの質問・意見への回答、リスクアセスメントを踏まえた対応①(陽圧防護服)
12月18日	第33回	建設工事の状況、委員からの質問・意見への回答、リスクアセスメントを踏まえた対応②(実験者の管理、実験内容の確認及び地域への伝達)
R3年2月12日	第34回	建設工事の状況、令和3年度予算政府原案、委員からの質問・意見への回答、リスクアセスメントを踏まえた対応③(廃棄物、排気及び排水の処理、実験動物の管理)
3月17日	第35回	建設工事の状況、委員からの質問・意見への回答、リスクアセスメントを踏まえた対応③(廃棄物、排気及び排水の処理、実験動物の管理)
5月31日	第36回	研究棟建設工事の状況、令和2年度予算の執行状況、監理委員会報告、委員からの質問・意見への回答、施設設備の維持管理及び緊急事態への対応
6月2日	第37回	実験棟視察の事前説明、実験棟視察、質疑応答
7月19日	第38回	研究棟建設工事の状況、委員からの質問・意見への回答
10月26日	第39回	研究棟建設工事の状況、長崎県・長崎市・長崎大学による緊急時の対応に関する検討状況、委員からの質問・意見への回答
R4年3月23日	第40回	研究棟建設工事の状況、長崎県・長崎市・長崎大学による緊急時の対応に関する検討状況、委員からの質問・意見への回答
6月28日	第41回	監理委員会報告、令和3年度予算の執行状況、新たな地域とのコミュニケーション組織の検討、伝達を行う目安、委員からの質問・意見への回答
9月27日	第42回	感染症研究出島特区・高度感染症研究センター出航式の開催、伝達、新たな地域とのコミュニケーション組織の検討、安全管理に向けた施設運用に関する事項(実験棟の安全管理規則案)、委員からの質問・意見への回答
12月20日	第43回	地域への情報伝達、新たな地域とのコミュニケーション組織の検討、安全管理に向けた施設運用に関する事項(実験棟の病原体等取扱安全管理基準案)、委員からの質問・意見への回答
R5年2月15日	第44回	安全管理に向けた施設運用に関する事項、委員からの質問・意見への回答、新たな地域連絡協議会への移行

④ 長崎大学高度感染症研究センター実験棟の運用に関する地域連絡協議会【令和5年度から10回開催】

開催日	回数	主な議題
R5年 7月24日	第1回	新たな地域連絡協議会、高度感染症研究センター実験棟に関する報告、監理委員会報告、長崎市地域防災計画
10月17日	第2回	高度感染症研究センター実験棟に関する報告、長崎市地域防災計画、他機関での事象紹介
R6年 2月13日	第3回	高度感染症研究センター実験棟に関する報告、長崎市地域防災計画
6月3日	第4回	高度感染症研究センター実験棟に関する報告、監理委員会報告、長崎市地域防災計画
10月29日	第5回	高度感染症研究センター実験棟に関する報告、災害等対応計画策定準備
R7年 1月28日	第6回	特定一種病原体等所持施設指定報告、高度感染症研究センター実験棟に関する報告

○令和7年3月24日 第7回

【議題: 高度感染症研究センター実験棟に関する報告、管理委員会報告】

大学等からの報告等	委員からの主な質問・意見
<p><教育訓練></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザラウイルス、フニンウイルス(Candid#1株)、インフルエンザウイルス(PR8株)の3種類のBSL-2レベルのウイルスを令和6年11月8日に搬入した。 ・上記3種類のウイルスを使用し、①ウイルスの搬入手順、②ウイルス保管容器の管理手順、③保存用ウイルスの作成手順を検証した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのくらいの保存用ウイルスを作成するのか。また培養したウイルスの変異の有無は調べるのか。 ・今回の訓練は何人参加し、どの程度の時間実施したのか。BSL-4施設を稼働させるには、習熟者が何人必要になるのか。
<p><実験棟における事故等の対応策の検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全対策の検討について、長崎県警察と不審者対応訓練及び警察への連絡訓練を実施した。 ・災害事故発生時の対応策について、長崎市及び長崎市消防局との訓練を令和7年度に実施する計画で準備を進めている。 ・実験棟内で人が倒れた場合の救命対応について、長崎大学病院及び保健センターに協力いただき、AEDの使用訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災で避難訓練を多く実施している学校の生徒は助かり、そうではない学校の生徒の死亡事例が多かったという教訓があるので、毎年1回は必ず警察との訓練を実施していただきたい。 ・内部の精神的に不安定な方が事件を起こした場合の対応は考えているのか。心身の健康状態の確認は定期的実施していただきたい。 ・実験棟での実験者は身分的には有期雇用か終身雇用か。有期雇用であるがゆえに過剰なストレスが研究者にかかるということもある。心身の安定のためにもこういったことも考えておく必要があると思う。 ・心身の安定のため、ヘルプライン(法律相談体制)を作ってはどうか。また、金銭面でのストレスは大きく、過去の企業での不祥事案の原因はお金のストレスであった。

○令和7年7月2日 第8回

【議題: 令和7年度地域連絡協議会委員、高度感染症研究センター実験棟に関する報告】

大学等からの報告等	委員からの主な質問・意見
<p>＜教育訓練＞</p> <ul style="list-style-type: none">・「管理区域に立ち入る者(BSL-4実験室に立ち入る者)」を対象とした年次訓練を実施した。	<ul style="list-style-type: none">・海外のBSL-4施設で経験のある研究者は、年次訓練で特別待遇されるのか。・年次訓練ということなので、一度受けた人も1年たてば、毎年同じような訓練を受けるということか。
<p>＜実験棟における事故等の対応策の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none">・長崎市の地域防災計画に本学BSL-4施設に係る事故・災害等対応計画が掲載された。・長崎市、長崎市北消防署と消防通報訓練を実施した。	<ul style="list-style-type: none">・東日本大震災の教訓に基づき、訓練は毎年必ず実施いただきたい。・訓練の経過記録をホワイトボードのようなものを書いていくとのことだが、実際に火災等が発生した場合でも同様のことを行うのか。
<p>＜実験棟の屋外スピーカーの使用訓練＞</p> <ul style="list-style-type: none">・令和7年10月下旬頃に屋外スピーカー訓練の実施を計画している。・冒頭のチャイム音を非常時を想起させるような音種に変更することを考えている。	<ul style="list-style-type: none">・聞き逃すこともあることから、「チャイム音を2回鳴らしてメッセージを1回言う」を2回繰り返してはどうか。・緊急時しか鳴らさないのであれば、サイレン音のほうが良いのではないか。・屋外スピーカーを鳴らした後、何があったかを住民が確認する方法は何かあるのか。

○令和7年11月19日 第9回

【議題: 高度感染症研究センター実験棟に関する報告】

大学等からの報告等	委員からの主な質問・意見
<p>＜教育訓練＞</p> <ul style="list-style-type: none">・スーツ着用下でのウイルス取扱訓練及び小動物を用いた訓練を実施した。・スーツ着用下での非ヒト霊長類(サル)を使用した訓練を予定している。	<ul style="list-style-type: none">・ウイルスを入れて保存する細いチューブをバーコードで管理するとのことであるが具体的にはどのように管理するのか。
<p>＜実験棟の屋外スピーカーの使用訓練＞</p> <ul style="list-style-type: none">・10月28日に屋外スピーカーの使用訓練を実施した。・放送内容は、4音チャイムを2回鳴らした後にアナウンスを流し、次にサイレン音を2回鳴らした後にアナウンスを流すというものをワンセットとし、音量を上げながら15分間隔で3回実施した。	<ul style="list-style-type: none">・客観的な数値で分かるように、確認地点で音量をデシベルで測定いただきたい。・家の中では聞こえなかった。家の中でも聞こえるような方策を考えていただきたい。・長崎市の広報車を出動させる等、大学では連絡が行き届かないところを網羅する意味で市と大学が連携していただけると良いと思う。
<p>＜実験棟における事故等の対応策の検討＞</p> <ul style="list-style-type: none">・坂本1団地の自衛消防組織の分隊として実験棟自衛消防組織を設置し、10月28日に行われた防災訓練に参加した。・10月8日に行われた委託会社による講習会に参加し、警備における警棒等の道具の取扱いに係る講義を受講した。・非常用備蓄食料等を整備した。	<ul style="list-style-type: none">・地震発生時に、原子力施設のようにテレビの字幕速報でBSL-4実験棟に異常はない旨の速報を流せないか。

○令和8年2月4日 第10回

【議題：高度感染症研究センター実験棟に関する報告】

大学等からの報告等	委員からの主な質問・意見
<p><教育訓練></p> <ul style="list-style-type: none">・意識不明者が発生した場合を想定した緊急搬出のための搬出訓練を実施した。・来年度、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス、オロプーシェウイルス、ランガットウイルスの3つのウイルスを新たに取扱うことを考えている。 <p><研究(実験)></p> <ul style="list-style-type: none">・カニクイザルを用いた研究訓練を実施した。低病原性ウイルスを感染させ、飼養、手技の検証、ならびに病原体の不活化条件等の検証を行った。	<ul style="list-style-type: none">・意識不明者を搬送用の毛布に乗せるまでが大変ではないか。サポートの在り方等、練習を継続いただきたい。・ペアで実験室に入室した際に片方の実験者がパニック等で突然暴れたした場合を想定した訓練も実施するべきではないか。・BSL-2ウイルスを使用した訓練でアクシデントはあったか。また、BSL-3のウイルスを使用するほうが実験者の緊張感が変わるのではないか。
<p><実験棟における事故等の対応策の検討></p> <ul style="list-style-type: none">・令和8年2月に不審者・不審物への対応訓練を実施予定である。 <p><警察への通報訓練時のホームページ掲載訓練></p> <ul style="list-style-type: none">・上記訓練の一環として、事故災害発生時のホームページへの掲載訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none">・警察から過去の事例を紹介いただき、警察指導の下、訓練を実施するのか。・どのレベルの事故等が発生した場合に実験を中止すべきかの検討もお願いしたい。



委員会場



委員会場（第6回協議会における
森内議長からの挨拶）



傍聴会場（一般傍聴者・報道関係者）

③ 中高生への理解増進活動

・令和7年7月27日(日)13:00~16:00
 熱帯医学・新興ウイルス感染症サマースクール
 (熱帯医学研究所と共同主催)



講演:「はたらかされる細胞~ウイルスは細胞をハイジャックする!？」

講師:野依 修 助教

会場参加32名 オンライン参加15名



研究紹介(ポスター): 矢島美彩子 助教
 テーマ:「スーツ型BSL-4施設と陽圧防護服の紹介」
 参加 中高生等13名

個人防護具着脱体験:リエゾン推進室
 参加 小中高生10名

・令和7年9月30日(火)14:30~16:00
 長崎県立長崎南高等学校 サイエンス講座「感染症とたたかう」
 講師(および補助): 好井健太郎 教授ほか計6名の教職員
 ※講演後、実験器具に触れる等の体験を実施
 参加 同校1年生生徒 27名



④地域イベントへの参加等(会場設営、運営スタッフとして)

- ・令和7年 7月 6日(日) 山里ふれあい七夕まつり
- ・令和7年 8月 2日(土) 被爆80周年記念事業、平和町商店街夏祭り
- ・令和7年12月 6日(土) 山里クリスマスイルミネーション点灯式
- ・令和7年12月21日(日) 山里ふれあいクリスマス会

